

大門だより

No. 8

荒川区立大門小学校

(468号)

校長 神田 やよい

令和7年 12月 1日

大門小ホームページ

荒川区立大門小学校

検索

《本校の教育目標》 考える子 やさしい子 たくましい子



「100年という時を超えて」

校長 神田 やよい

「紅葉も終わり、季節が冬へと変わりました。」

令和7年12月6日、大門小学校は創立100周年を記念する式典を執り行います。

大正15年3月15日、東京府北豊島群大門尋常小学校ができました。翌月一日、職員18名、児童1036名の18学級で開校されました。当時はまだ田畑が広がるのどかな風景でしたが、子どもたちの数は爆発的に増え、昭和11年（1936年）4月には、本校史上最大の1967名という児童数を記録しました。教室は子どもたちであふれ、午前と午後に分かれて勉強する二部授業が行われるほどの活気に満ちている時代でした。

しかし、昭和8年（1933年）には校舎が放火により焼失するという悲しい出来事がありました。この困難に際し、地域の方々がすぐに力を合わせ、わずか一年で新校舎を再建された事実は、本校と地域社会の強い絆と、子どもたちの学びを守るという強い決意を今に伝えています。

戦時下では、子どもたちは昭和19年（1944年）8月に福島県白河町への集団疎開という、親元を離れた厳しい日々を経験いたしました。この時の、幼い子どもたちが心細さに耐え忍んだ「父への手紙」の記録は、今も私たちの胸に迫るものがあります。

終戦後、焼け野原となった荒川区に帰還した子どもたちを迎えたのは、かろうじて戦火を免れながらも荒れ果てた校舎でした。この時、教職員と保護者が心を一つにし、薄暗い教室の壁にペンキを塗り、「美しい環境づくり」から学校生活を再建しました。この不屈の精神こそが、大門小学校の変わらぬ原点です。

戦後の教育改革を経て、昭和22年（1947年）に大門小学校となり、昭和25年（1950年）には、未来への希望を込めた校歌が制定されました。また、昭和29年（1954年）には荒川区で最初の特殊学級（現在の特別支援学級）が開設され、多様な子どもたちへの教育が始まったことも、本校の特筆すべき歴史です。

昭和40年（1965年）までに鉄筋コンクリート校舎、屋内体育館、プールの全てが整備され、近代的な学校施設が整いました。

平成時代に入ると、教育は新たな進歩を遂げます。平成11年（1999年）のコンピュータ室完成、平成15年（2003年）からの英語科学習の導入など、時代の変化に合わせた教育を積極的に取り入れました。子どもたちの数が減っていく中でも、本校は常に質の高い教育を追究し、また震災の経験から防災教育や「いのちの授業」を通じて、未来を生き抜くために必要な、人間として大切な力を育むことに注力してまいりました。令和の時代には、新型コロナウイルス感染症という世界的な困難に直面しましたが、本校は迅速に対応し、子どもたち一人一台のタブレットPC貸与により、学びの機会を守り続けました。困難な状況にあっても、教育を止めないという、本校の強い決意を示したのです。

この百年の歴史は、まさに皆様の愛情とご努力の賜物です。

この百周年の節目にあたり、私たちは歴代の卒業生、教職員、そして保護者・地域の皆様が築いてくださった偉大な歴史と伝統を心に刻み、次なる百年、そしてその先の未来へと、この大切な学びの灯を力強く継承してまいります。

最後に、この度の式典や祝賀会を迎えるにあたり、多くの方にご賛同いただき、児童アトラクション等への支援を得てこの日を迎えられました。ご支援いただきました皆様に感謝申し上げます。